

エディトリアル

公益社団法人地域医療振興協会 総合診療産婦人科養成センター センター長
市立恵那病院 副管理者・産婦人科部長 伊藤雄二

女性のライフステージにおいて、閉経周辺期は女性としての体調の変化のみならず、家族の問題を含めた社会的な環境も大きく変化する時期である。更年期における身体・心理・社会的ケアとその後の閉経後に向けたケア等、地域の総合診療医として関わるべき問題も多いと思われる。本来、女性のライフステージにおけるさまざまな健康問題はプライマリ・ケアの一環として捉えられる問題であり、決して産婦人科医療の範疇にとどまる問題ではない。しかしながら、女性の更年期、閉経周辺期の問題にかかりつけ医として継続的に関わりたいと考えている総合診療医でも、それを実践するための研修等の機会も少なく、どうしても敬遠しがちとなる場合も多いのではないだろうか。今回は女性の健康問題として重要なテーマである更年期症候群の概念、そしてそこに関わる総合診療医として知っておくべき知識、実際の治療における選択肢、治療のメリット、デメリットと留意点、治療の根拠や長期予後等について、さまざまな立場の先生方から執筆いただいた。

具体的には、総合診療医として積極的に更年期の診療を実践している城向 賢先生から、更年期女性の身体・心理・社会的変化と健康な更年期を過ごすための総合的な関わりについて、総合診療医ならではの視点から継続的なケアを含めた内容について執筆いただいた。また篠原康一先生、若槻明彦先生、安井敏之先生には更年期症候群の治療において中心的な役割を果たすホルモン補充療法の実際とその脂質代謝への影響、さらには補完代替医療の理論と実践について、女性診療および更年期診療のエキスパートとしての立場から、理論的かつ実践的な内容を、総合診療医にも参考となるように具体的に分かりやすく執筆いただいた。さらに大澤 稔先生には本誌10月号(Vol.33 No.10)の特集「地域での漢方治療のススメ」における執筆内容を踏まえ、特に更年期に多いとされるメンタルの変調と漢方治療における留意点を中心に執筆いただいた。

これまでも、さまざまな視点から地域において総合診療医が関わるウィメンズヘルスケアについて特集を企画してきたが、今回は特に地域医療を担う総合診療医にとってより身近な問題である更年期について特集を企画した。この特集が地域におけるウィメンズヘルスケアの充実の一助となることはもちろんのこと、総合診療医が更年期の健康問題や更年期症候群をはじめとしたウィメンズヘルスに実際に関わり、地域での実践につながっていくためのきっかけとなるだけでなく、すでに実践されている先生方の診療の幅が広がることを切に願っている。